はじめに

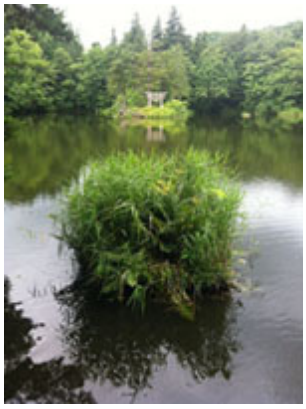
大朝日岳と大沼浮島との出会い

大朝日岳

大好きな東北の歴史を探っているうちに、隣県山形県にある朝日岳と大沼浮島に出会いました。朝日岳の山岳信仰「朝日嶽信仰」は鎌倉時代に北条時頼により1000年封じされたまま。そして大沼浮島は、湖面に浮かぶ葦の島が、意思があるかのように自由に動き回ることで有名な沼です。私も何度も足を運び、ついに島が動くところを見ることができ感動しました。どちらにも役の小角伝説があります。

15年ほど前から祭祀線を調べていますが、なにかと大朝日岳と大沼にラインがぶつかってくることに気づきました。ただ、紙地図に鉛筆ではアバウト過ぎて確実性が得られませんでした。

しかし一年前、無料地図ソフトにコンパス機能がついたものを発見しました。その結果、神々をつなぐ祭祀線は、本殿や奥の院、山頂などとズレのないピンポイントで繋がることがわかりました。（誤差は5m内）



大沼の浮島

そして、大朝日岳・大沼浮島、そして岩手県の早池峰山は、古代には東日本最大の聖地で、大和朝廷はそれを封じるため、あるいは利用するために三角祭祀線をしくんできたのではないかと思うようになりました。

縄文時代に信仰されていた日本中のあらゆる自然聖地には別の神が置かれ、庶民はその似非神を信仰し、瀬織津姫は隠されてきました。日本中が祭祀線で網目のように張り巡らされてきたのです。しかも、その「しくみ」は現代においても一部の権力者達のために優位に使われています。そうして、古代から日本は一部の権力者たちに支配されてきたことがわかりました。

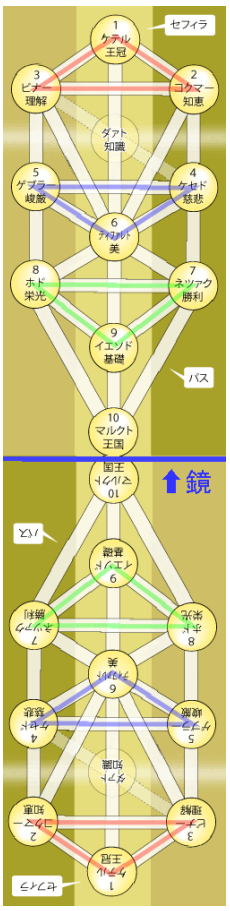
5m誤差で調べられる円形地図ソフト

大仏鍍金するための金が産出した石巻地域のしくみ

「三角祭祀線」は「カバラ」!?

神々をつなぐ相合傘。三角形を基本とする祭祀線は、ユダヤ教の神秘主義思想「カバラ」の「生命の樹（セフィロトの木）」の三角形、そして十字架と似ています。古代出雲族や天孫族がユダヤから来たとされる日ユ同祖論や、密教との類似性も指摘関連されていることも考慮すると、神社仏閣等の配置は、地上に施したカバラなのだと思われます。

ただ、カバラには高次元の世界から物質界までを表した「生命の樹」に対して、「邪悪の樹」というものがあるそうです。生命の樹が上に**「高次の光」**を目指していくのに対して、邪悪の樹は下の**「虚無」**の世界に引き込まれていくのだそうです。



「天の岩戸開き」

だとしたら、その始まりは日本神話の「岩戸開き」だったのではないでしょうか。アマテラスは女神ですが、世界中の太陽神は男です。命を生み出す大地や海の神は女神。

俗に「嘘と暴力の岩戸開き」と言われています。そのスキルとして、鏡と榊（邪悪の樹）、〆縄（封印・監禁）、女神の裸（誘惑）が使われました。

「命の樹」に鏡を置くと正反対の「邪悪の木」が見えるのだそうです。これが「逆さの樹」すなわち「榊（サカキ）」です。岩戸開き以来、日本の太陽の神は反対の女神に仕立て上げられたのです。そして私たちは、贄として賽銭や供えをし、鏡に参拝させられます。純粋な祈りの念（気）は「高次の光」には届かず、反射し、真逆の「虚無」に向けて発せられてきたのかもしれません。私の住む地域では、妊婦が葬式に出るときは腹帯に鏡を入れて胎児を悪霊から守る風習があります。鏡は念（気）を弾き返すのです。そして、しめ縄により、私たちの魂も高次の光には向かえないように封じられてきたのかもしれません。負け組とされる出雲系の神社は石がご神体です。そしてとても太いしめ縄がかけられています。現在の日本の最高神、天孫系の天照大神の伊勢神宮には、しめ縄が見当たりません。そこに全国の気が吸い込まれていくように思えてなりません。

「生命の樹」と思いながら「邪悪の樹」を信仰させる。その結果、エゴのために戦いを繰り返す欲得にまみれた世となってしまいました。そして聖地に集まったその邪な気は、さらに悪の権力に利用されているのです。そのための「カバラ」が古代から日本中に施されてきたのだと思うのです。

おそらく岩戸開きは、自然に感謝し平和を愛する饒速日と瀬織津姫が封印され、真逆のエゴと暴力の時代が始まる象徴として作られた物語なのでしょう。

以上が私の妄想歴史です。このサイトではそれらの三角祭祀線のカバラを単純に「しくみ」と呼び、大切と思われる一部と、15年間研究した「しくみ」の作り方と意味を紹介いたします。ただし、あくまで私の勝手な見解です。不愉快になられる方もいらっしゃると思いますが、私の妄想をどうぞ笑ってお許しください。また、大変参考になった多くのサイトから勝手に文章や画像を拝借しております。敬意を表すとともに心からお詫び申し上げます。

2017年4月

（追記）

ただ、この世は魂を成長させ「光輝く」ための勉強機関とするならば、そのような「闇」も必要だったのでしょう。争いや差別のエゴの世界に、何度も転生し生きることは、痛みや悲しみを体験し大切なことに気付くための学びと言えます。しかし、「光」の時代へ移行するこれからの時代にこのしくみは、もう必要はないと考えます。